



この世でたったひとりの息子、侑真。

そんなかけがえのない侑真が、学校からの
帰り道、猛スピードで走ってきた車に、自転車

ごと跳ね飛ばされた。

意識のないまま病院のベッドで17歳の誕生日を迎え、そしてそのまま逝ってしまった。

何でもない幸せの日々がずっと続いていくと信じていた。

私たちにこんなことが起こるはずがない、とても受け入れることは出来なかった。

侑真を失った悲しみと守ってやれなかったという自責、加害者とその家族の人間とは思えないひどい態度や言葉、被害者の味方ではなかった司法。

さまざまなことに絶望し、早く侑真の元へ行きたい、世界が終わってしまえばいい、そんなことばかり考えていた。

侑真は幸せだったのかな。

私たちの子供でよかったのかな…。今でもふと思う。

でも侑真は生前、「産んでくれてありがとう」って言ってくれた。

そして、医師も驚くほど必死で生きようと頑張った。

それを考えると簡単に死んではいけないと思えた。

私たちが生きている限り侑真も生きているから。

